

幼 兒 の 教 育

昭和二十年十二月

百年前の追想

——フレーベルの幼稚園——

倉 橋 惣 三

今年フレーベルが幼稚園を創設してから百年に當るにして、外國でも我國でも、諸所に記念の會が催された。まことに喜ばしいことである。但し、今年すなはち一九三七年の百年前は一八三七年であつて、その年の一月フレーベルがブランケンブルヒに來て開始した事業は、今日の意味に於ての幼稚園では、まだなかつたといふ説もある。ほんまうに幼兒を集めて實際の幼稚園教育法を實施したのは、一八三九年からであるといふ論である。その點に於て確證を知らないし、一般の解釋に従つていゝきは思ふが、一八三七年に於けるフレーベルの興味は、彼れの創案の恩物の製作に普及すが、すべてでないにしても、その主なるものであつたかと思はれる。實は、この細かい點が私の頭からんでゐて、今年内に、百年記念に就き本誌に何も書かずに過ぎて仕舞つた譯ではあつたのである。

しかし、いづれにしても、フレーベルの幼稚園に關する深い潛心は、確にその頃から芽をふき出してゐた。當時フレーベルはブルグドルフに於て孤兒院に従事してゐたのであつたが、一八三六年頃から、人間教育の理念を思慕しが汪んになり、孤兒院長を辭し、ベルリン等を巡遊してゐる間に、恩物製作に關する考案が熟し、一八三七年から八年へかけて、プランケンブルヒで、その事業を興したのである。その間、フレーベルが、事業上の成功に力を注いだことは當然であつたが、その根本の思想が、兒童教育にあつたことはいふまでもない。つまり、フレーベルは彼一流の物による教育の考案を世に布かうしたのである。フレーベルの幼稚園をいへば直に恩物を聯想し、甚しきは、恩物が幼稚園であるといつたやうな固定した考へ方を生じたのも、此の邊の事情に起因すると言つてよからう。

その中、一八三九年になり、その夏、フレーベルは深い考へを以て、幼兒教育講習會を開き、つゞいて、母のための講習會を開き、その、講習生の實習のために幼兒を集めて、「遊戲と作業場」を設けた。これが、一八四〇年になつて、彼の苦心の新名稱「キンダーガルテン」で呼ばれるやうになつたものである。そこで、われ／＼が、茲で認めなければならぬところは、フレーベルの幼稚園が、二つの源流の合併によつてゐることである。その一流は、恩物に具現されようを試みられた、自己教育の教育思想であり、之れはフレーベルの一つの貴い創案であつた。他の一流は、家庭教育を婦人の手に於て完成しようとする、實際的意圖であり、之れはフレーベルの一つの貴い識見であつた。而して、此の二つの源流は、孰れを重し輕しきするべきものでもなく、殊に、その合流するところにこそ、幼兒教育としての活きた力を生じ來るものもいへるのである。

たゞ、強ひて二つを分ちて、それ／＼によつて考察を試みる態度を以つてみる時に、そこに多少の差異を立て得ないこともない。すなはち、前の源流では、教育理論が主となり、後の源流では、教育事實が主になつてゐるを見られる。従つ

て又、フレーベルを單一に幼児教育者を見るは前者に倚り、フレーベルを女子、殊に母の教育者を見るは後者に倚ることもいふところになるであらう。實に、フレーベルは此の雙方であつたので、之れ亦、決して對立させるべき性質のものではないが、世の一般が、フレーベル及びその幼稚園を前の意味で認めること多きに比し、後の意味での認め方の足りないことは、聊か缺陷しなければなるまい。近時、フレーベルの故郷ドイツに於て、彼を女子教育者として尊敬する風潮の強く起り來つてゐることは、嘗て本誌に掲げたシュプランガー博士の講演(本誌十月號)國民教育家及び女子教育者としてのフレーベルにも見ゆる通りであるが、幼稚園関係者間には却つて此の認識が乏しいかきも見られる。殊に我國に於てそうであるまいか。そして、母の教育への働きかけを一つの特色とするアメリカのナーセリー スクール運動を、幼児教育施設の全然新しい計畫であるかのように唱導したりする風がある。豈計らんや、フレーベルの幼稚園が疾くに、そこを意圖してゐたのである。(その内容に於て現代のナーセリー スクールの如くではないが)之れは、少くも、フレーベルの幼稚園をその創設期に於て回顧する時に、見逃してならないことであること信ずる。だからさいつて、一八三七年よりも一八三九年に重きを置いて、その方を主に記念したいといふやうな、さちらでも大して變りない考證論を繰るかへす譯ではないが、若し、一八三九年のフレーベルの意圖を含めることなき幼稚園創設百年記念は、決して、フレーベルの幼稚園をその完全な創案に於て記念するものとはいへないであらう。

世界が、フレーベルを特にその幼稚園に就て追憶敬慕した此の目出度い年を、本誌も亦一言それに聲を合はせることなくして逝かしては濟まないと思つて、この追想を語るものである。